共依存の倫理
――精神分析と臨床心理を越えて――

小西　真理子

１．本研究の背景と目的

1970 年代末、アメリカのアルコール依存症の臨床において、セラピストたちは、アルコホリック（アルコール依存症者）の周囲には自らの生活全てを賭けて彼らを支えようとするイネイブラー（enabler）がいることに気がついた。イネイブラーはアルコホリックから依存されることに依存しているため、彼らの症状の回復ではなく、病理の進行をサポートする行動を無意識にも取ってしまう。イネイブラーに類似する症状は、イネイブラーの個人的症状に留まらず、アルコホリックとイネイブラーのような関係性という意味も含む共依存（co-dependence, co-dependency）と呼ばれるようになった。この臨床で生まれた共依存という語は、その特性が注目を浴びることにより、臨床以外の領域でも使われるようになった。

これまで共依存は、セラピストやカウンセラーのような専門家たち[Beattie,1978; Schaef, 1986; Mellody, 1989; Whitfield, 1991]、依存症者本人たちによる自助グループ[Alcoholics Anonymous, 2001]、嗜癖（addiction）を研究対象とする研究者たち[Hands&Dear, 1994; Palino&McCrady, 1977]によって、その回復の手段を探すことを主な目的とする研究がされてきた。1990 年代以降は、アンソニー・ギデンズが『親密性の変容』で共依存を取り扱ったこともあり、社会学においても研究がみられるようになった[Giddens, 1992; 加藤, 1993]。このように、共依存概念は、ディシプリンを越えて、それぞれの領域で断片的に語られてきた。本論文では、これらの共依存言説について、領域を超えて再検証することを経て、これまでの共依存研究における以下の四つの問題点の解決を目指す。

第一の問題は、共依存概念生成の歴史研究が、非常に曖昧な形でしかなされてこなかったことである。共依存概念は医学界において定義が曖昧でその存在自体が疑わしいと批判されている。この批判が生じる原因のうち最も顕著なものこそが、この歴史研究の曖昧さであるため、その解決が求められる。また、共依存の概念史を検証すれば、それが共依存の病理化の歴史であることが分かる。しかし一方、その概念史において、共依存の病理性は、常に非病理性を抱えた両義的なものとして現れてくる。共依存の病理性について論じている先行研究においては、共依存の精神医学的病理の確立を目指しているものや、その病理性における曖昧さの事実のみを記述しているものが多く、共依存の病理性における両義的側面の歴史的必然性に対する指摘は見当たらない。

そこで本論文第Ｉ部（第１～３章）では、共依存概念生成にはじまり、共依存という現象がいかに病理化されていったのか、そして現在、共依存概念はどのような意味で用いら

れ得るのかを歴史的に検証することによって、概念生成以後、著しい意味拡張を遂げた「共依存」の現在における意味範囲を明確にする。そして、病理と非病理の狭間をさまよう共依存概念の実像に迫ると同時に、その病理性に元来含意されていた神経症的要素が、意味拡張の過程で薄れていっていることを示す。

第二の問題は、「共（co-）」という契機、すなわち、個人の症状だけでなく、関係性それ自体も病理とみなす視点に着目した上で、共依存と、精神医学・精神分析との関係を分析した研究がほとんどないことである。共依存概念は、嗜癖的な個人の症状と、嗜癖的な関係性の双方を意味している。個人の症状を診断する視点は従来の精神医学・精神分析における視点である。共依存は、その視点を担保した上でなお、従来の精神医学・精神分析において見逃される傾向にあった視点である関係性的視点も対象とした言葉である。

そこで、本論文全体にわたって「共」という視点の重要性を示し、関係性の病理を取り扱う際に、個人的症状および関係性の双方を取り扱わなければ、その病理の本質に迫りかねることを示唆したい。将来的には、「共」という視点に着目することでアメリカ精神医学・精神分析を再検討し、これまでの研究を補強することを目指したいと考えている。

第三の問題は、これまで共依存の倫理的考察がされてこなかったことである。共依存が物語られるとき、物理的な暴力や、共依存関係にある者同士が、互いを単なる手段として利用しているあり方や利己的なあり方などに対する倫理的な批判がされてきた背景がある。この事実は、共依存を倫理的に考察する必要性を説いている。

本論文の第Ⅱ部では、共依存の各種療法、理論研究、フェミニズム批判などを分析することで、共依存の回復論のなかにある、自律主義や個人主義を背景とする一定の倫理観の存在を浮かび上がらせることを試みる。最終的には、共依存にまつわる諸問題を倫理的に扱うための基盤を提示することを目的としている。

第四の問題は、前述の共依存理論における倫理観が、共依存にまつわる一部の現象に対する否定・排除を生むことである。これまでの共依存研究は、他者との関わり（依存）の重要性を指摘した上でもなお、最終的には回復者としての自律を目指すためのものであると言える。この理論に潜む倫理観は、もちろん問題解決の一つの在り方を示す重要なものである。しかし、他方でこの倫理観は、「関係性におけるあるべき姿」を示しており、この流れにそぐわないものは「未熟」ないし「不健全」とみなすものである。

本論文では、共依存者の生き方や関係性を選ぶ者たちを一方的に否定してきた従来の共依存研究の理論や言説が一定の倫理観の上に形成されていることを明らかにする。そして、その倫理観によって共依存者たちの「不健全」な生き方が批判されていることを示し、その上で、その者たちの生き方を完全に否定することなどできないということ、または、否定する確固たる理由が実は存在しないということを明らかにする。

したがって、本論文は、共依存の概念史を提示すること（第Ⅰ部）、共依存にまつわる各領域の理論を整理・分析し、そこに存在する倫理観を暴き出し、そこから生まれる排除

的思想を明らかにすること（第Ⅱ部）を目的とする。この作業の経過において、従来の倫理観によって見過ごされてきた共依存に潜む肯定的側面を明らかにする。

２．論文の構成

序章
1. 共依存とは（個人的症状／関係性）
2. 本研究の目的、論文構成、意義、方法論

第Ⅰ部　共依存の概念史

第１章　共依存概念の誕生史
- 1. 共依存の前史
  - 1.1　精神障碍的人格論（内部原因論）
  - 1.2　ストレス論（外部原因論）
  - 1.3　家族システム論（要因論）
  - 1.4　イネイブラー概念の成立
- 2. 共依存の誕生
  - 2.1　コ・アルコホリック
  - 2.2　共依存

第２章　共依存の病理化
- 1. 共依存症
  - 1.1　精神医学
  - 1.2　広義の共依存症
    - 1.2.1　援助専門家
    - 1.2.2　男性
    - 1.2.3　依存症者
    - 1.2.4　現代人
- 2. 共依存関係
  - 2.1　臨床領域
  - 2.2　二者関係を越えたシステム論
  - 2.3　社会学
- 3. 共依存病理の両義性
  - 3.1　共依存における病理性と非病理性
  - 3.2　日本的共依存

第３章　共依存と精神分析
- 1. 共依存概念の誕生に影響を与えた精神分析理論
- 2. 共依存言説において引用される精神分析理論
  - 2.1　ホーナイの病的依存
  - 2.2　フロムの共棲
  - 2.3　真の自己と偽の自己
    - 2.3.1　「真の自己」と「偽の自己」にまつわる理論
    - 2.3.2　「内なる子ども」と「共依存自己」

第Ⅱ部　共依存の理論とその倫理観

第４章　共依存とフェミニズム
1. ラディカルフェミニズムからの批判
2. フェミニンフェミニズムからの批判
3. 共依存概念の意義
3.1　「共依存」の存在
3.2　「完全に否定的なものと見なす」ということへの懐疑

第５章　共依存とトラウマ論
1. 共依存とアダルトチルドレン
1.1　アダルトチルドレンとは
1.2　機能不全家族
1.3　役割理論
1.4　世代間連鎖
1.4.1　親の嗜癖者率と同類結婚
1.4.2　アダルトグランドチルドレン
2. 共依存のトラウマ論
2.1　男性性の暴力
2.1.1　身体的虐待
2.1.2　性的虐待
2.2　女性性の暴力
2.3　関係性の暴力
3. 共依存のトラウマ論から見えてくるもの
3.1　世代間連鎖を断つという責任
3.2　ケアするか、権利を主張するか

第６章　共依存の回復論
1. 回復者の統治
1.1　再帰的な回復論
1.1.1　自助グループにおける再帰性
1.1.2　共依存の自助本における再帰性
1.2　嗜癖的な再帰性
1.2.1　再帰性の矛盾
1.2.2　回復者たちの嗜癖
1.3　統治のメカニズム
2. 回復論の倫理観
2.1　真の自己
2.1.1　「自己喪失の病」からの回復
2.1.2　「否認の病」からの回復
2.2　親密性
2.3　回復論の拒否
2.3.1　「治療」しない者
2.3.2　「治療」したくない者
終章
参考文献

３．論文の要旨

第Ⅰ部「共依存の概念史」では、共依存概念について歴史的に検討し、共依存という語の現在における意味範囲を明確にした。

第１章「共依存概念の誕生史」では、共依存概念の誕生において重要な関わりを持っているアルコール依存症の研究のうち、特に「アルコホリックの妻」を病理化する言説に着目し、そこから導き出される共依存の概念史について論じた。1940 年代にアルコール依存症の家族研究で、アルコール依存症の病理の原因をアルコホリック本人だけではなく、その妻にもみる理論が成立した。神経症的欲求をもつ妻の病理的人格が夫の病理の一因であることが発見されることで、妻の病理だけではなく、アルコホリックの結婚に病理を見る視点も生じた。この家族研究の理論は次第に臨床に介入し、1960 年代にはアルコホリックの病理を可能にする人を意味する「イネイブラー」という語が誕生した。1970 年代初頭には、アルコホリックと苦悩を共にする人を意味する「コ・アルコホリック」概念が臨床において成立した。その後、イネイブラー概念を生成したアルコール依存症の家族研究の影響や経済効果を狙った政策を背景に、「コ・アルコホリック」という語がイネイブラー的な意味をもつ共依存という語に変化した経緯を明らかにした。

第２章「共依存の病理化」では、概念成立以後における、共依存の病理化について検討した。共依存概念は、依存的な個人的症状および関係性を「神経症的症状」あるいは、「神経症的関係性」として病理化する概念として誕生した。しかし、概念が拡張する過程で、共依存という語の対象範囲は、アルコホリックやイネイブラーをモデルとするような具体的な個人的症状／関係性から、より抽象的な個人的症状／関係性に拡張していき、ひいては、人間以外のものに向けられる嗜癖的症状にまで及ぶようになった。このような概念拡張の歴史について検討することで、共依存における「病理性」が意味するところのものが変化していることを明らかにした。また、共依存概念が、アメリカから日本に輸入されることで共依存を肯定的なものとして捉えた言説が生じたことにも着目した。

第３章「共依存と精神分析」では、共依存議論において参照されている精神分析理論のうち、特にカレン・ホーナイの「病的依存」、エーリッヒ・フロムの「共棲」、そして、「真の自己」と「偽の自己」について検証することで、共依存概念が指摘する「病理性」が「神経症的な病理」から「自己喪失の病」に変容してきたことを明らかにした。「自己喪失の病」は、神経症的な病理を前提とした精神分析理論を介して現れてきたが、共依存言説においては、必ずしも神経症的な意味をもたない。時に「自己喪失の病」は、純粋に自己のあり方の病理性を問うものとして語られているのである。

第Ⅱ部「共依存の理論とその倫理観」では、共依存をめぐる理論を整理することを通して、共依存言説に潜む倫理観を浮かび上がらせた。

第４章では、第一に、二種類のフェミニズム批判、すなわち、共依存概念の普及をバックラッシュの一貫として見なすラディカルフェミニズム、および、関係性を重視する女性

の特性を評価した上で共依存概念を批判したフェミニンフェミニズムの批判を考慮することで、共依存における現行の回復論を再考した。本章では、フェミニンフェミニズムの立場に着目することで、関係性や共感能力を重視した回復論である「関係内自己（self-in-relation）」理論に焦点を当てることを経て、共依存言説において聞き逃されがちな、当事者の声について論じた。第二に、以上のフェミニズムと共依存の論争を総括した上で、共依存概念の存在意義について検討した。フェミニストたちの批判を通じて、共依存概念自体が、女性に対する理不尽な状況を促進させるということが分かった。しかし、それでもなお、「共依存」という語が、その描写する現象を捉えることや、関係性そのものの病理を注視し、その病理と向き合うことを可能としたこと、そして、その現象について熟考することで、否定的なものとしてしか見えないような関係性においても肯定性があることを示す可能性をもっており、これらの意味で重要な意義を持つ語であるということを明らかにした。

第５章「共依存とトラウマ論」では、共依存概念と密接な関わりを持つ、「アダルトチルドレン（家庭内トラウマを背負って大人になった人）」について検討し、共依存者の子ども時代やトラウマについて考察した。共依存言説には、共依存者が、トラウマの原因を乗り越えることで同じ悲劇を繰り返さないこと（世代間連鎖を断ち切ること）に対する潜在的な義務が示されており、共依存の当事者であった共依存本の著者たちが、その義務を感じたうえで、トラウマの克服を訴えている。そして、トラウマを乗り越えるためには自分の「親のようにならない」ことが重要であるという、親を反面教師と見なす思想が定着している。また、共依存のトラウマ論のなかには、トラウマの原因である親や、家族における関係性のケアを行うべきか、それともトラウマの原因と訣別する権利を優先させるべきか、という倫理的葛藤が存在することを明らかにした。その葛藤をいずれかの形で乗り越え、健全な子育てができる大人に回復することが、共依存やアダルトチルドレンの回復論における重要な目的となっている。このことは、共依存者が、「健全な」子育てができない可能性が極めて高い人間としての烙印を押されていることも示している。

第６章「共依存の回復論」では、共依存の回復論を検討することで、第一に、アルコール依存症の自助グループ AA（アルコホリック・アノニマス）における回復者や、共依存の自助本を手にした回復者たちについて検討することで、共依存の回復論が提示する回復者の再帰的なあり方／関係性が、共依存者の嗜癖的なあり方／関係性と類似したメカニズムをもつことについて論じた。第二に、共依存の心理セラピーにおける思想には、現代人が目指すべき自己と築くべき関係性を指し示す倫理観が潜んでいることを示した。共依存の自助本で推奨されている「健全なあり方」と、回復すべきとされる「不健全なあり方」が二分法で示されており、その変容の過程が実は吟味されていないことにも着目した。共依存の回復論を拒否する者のなかには、そもそも「治療」をする必要性を想像したことさえない者や、心理セラピーを通じて回復することで喪失してしまうものがあると考えるため、「治療」したくないと思う者などがいる。このような人々に対して、回復言説におけ

る二分法は、正しいあり方に対する強制力に化す危険性がある。このように共依存の回復論が適合しない者がいることを示唆し、既存の回復論における全能感に異議を唱えた。

終章では、共依存言説に内在する自律主義や個人主義について考察した。フェミニンフェミニストたちは、従来の回復論は、自律、独立、自己実現を価値あるものと見なし、一方で依存を完全に排除しようとする男性中心主義のものであると批判し、「関係内自己」理論を提唱した。関係内自己理論を採用することによって、依存を否定するのではなく受容し、他者だけではなく自己のケアも怠らないような相互依存関係を目指すことができる。このようなオルタナティブな回復論は、関係性を重視する女性が、既存の回復論に対して持っていた違和感を克服するための一助となる。この関係内自己理論において目指される相互依存やエンパワメントは、「共依存」の回復にとって重要な概念となる。というのも、共依存言説は、心理的に自己と他者が未分化の状態にあるような関係性を打破すべきものとして描写しているからである。つまり、共依存における「依存」は、フェミニンフェミニストの立場からも批判対象となるのである。しかし、「甘え」文化をもつ日本においては、自他未分化の状態さえも肯定的に捉える言説が存在している。このことは、これまで「個人主義」のアンチテーゼとして提示された諸理論にも、実は「個人主義」ないし西洋中心主義が潜んでいる可能性があることを示唆している。相互依存における「依存」だけでなく、共依存における「依存」に対するより深い考察と議論が求められているのである。

４. 論文の意義

本研究の意義は、以下の三点である。第一に、本研究は、これまでの精神分析や精神医学が取り扱ってきた個人的症状と、それらの学問において見逃される傾向にあった関係性の視点を併せもつ、すなわち、「共」という契機をもつ共依存概念に着目することで、将来的に、精神分析や精神医学理論を補強する可能性をもつ。本研究によって、少なくとも共依存的な病理に対して、関係性の視点なくしては病理の本質を把握しきることが困難であると示された。このことは、現在の精神分析および精神医学において行われている「関係性」の視点をめぐる論争にも貢献するだろう。

第二に、これまで心理学的領域および社会学で論じられてきた共依存を、倫理的領域へ横断可能な概念として提示することである。この検証を通じて、共依存から生じる具体的な諸問題に対して、倫理学の蓄積を応用する礎を築くことができる。

第三に、これまでの共依存理論に潜む倫理観を検証することを通じて、臨床の専門家や各領域の理論家が見逃してきた共依存における「現実」を提示することである。共依存者の中には、治療や他者の介入を通じて現状を改善することを拒否することで、あるいは、そのようなことを想定しないで、その悲劇的な人生の中に肯定性を発見し、不幸の中の幸

福を見つめて生きている者がいる。また、共依存的なあり方、関係性こそが幸せの形だと考える続ける共依存者もいる。本研究は、このような人間の多様性を提示し、彼らが見出した共依存に潜む肯定的側面に光を当てることで、これまでの研究に見逃されてきた倫理を提示する。

【参考文献】

アラノン家族グループ（出版年不明）『ロイスの物語』アラノンジャパン G.S.O.

Al-Anon Families Groups, 2005, *Al-Anon's Twelve Steps & Twelve Traditions Revised*, Al-Anon's Family Group Headquarters.

Alcoholics Anonymous, 2001, *Alcoholics Anonymous: The Story of How Many Thousands of Men and Women Have Recovered from Alcoholism Fourth Edition*, Alcoholics Anonymous World Services. （2002『アルコホーリクス・アノニマス――無名のアルコホーリクたち』AA 日本出版局）

American Psychiatric Association. 1987, *Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Third edition-revised: DSM-III-R.* （高橋三郎編 1988『DSM-III-R 精神障害の分類と診断の手引』医学書院）

―――2000, *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 4th Edition, Text Revision: DSM-IV-TR.*（高橋三郎・大野裕・染矢俊幸訳 2003『DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引』医学書院）

―――2013, *Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Fifth Edition: DSM-5*, American Psychiatric Association.

Anderson, R.O, 1986, "The physician as an enabler of the chemically dependent patient: How to avoid the traps," *Postgraduate Medicine*, vol.79 (8).

あさみまな 2010『いつか愛せる――DV 共依存からの回復［新版］』朱鳥社

Asher, R. & Brissett, D., 1988, "Codependency: A View from Women Married to Alcoholics," *The International Journal of the Addictions*, vol.23 (4).

ASK, 1995『アディクション――治療相談先・全ガイド』アスク・ヒューマン・ケア

―――2002『アディクション――治療相談先・自助グループ全ガイド』アスク・ヒューマン・ケア

麻生克郎 1995「阪神・淡路大震災時における精神科の援助活動」『公衆衛生研究』Vol.44 (3).

Beattie, M. 1987, *Codependent No More: how to stop controlling others and start caring for yourself,* Hazelden Foundation. （村山久美子訳 1999『共依存症 いつも他人に振りまわされる人たち』講談社）

Benjamin, Jessica, 1988, The Bonds of Love, Pantheon Books. （寺沢みづほ訳 1996『愛の拘束』青土社）

Black, Claudia., 1981, *It will Never Happen to Me: Growing Up With Addiction As Youngsters, Adolescents, Adults*, MAC Publication. （斎藤学訳 2004『私は親のようにならない』誠信書房）

———鈴木美保子・水澤都加佐訳 1998『もちきれない荷物をかかえたあなたへ』アスク・ヒューマン・ケア

Black, Claudia., et al. 1985, "The Interpersonal and Emotional Consequences of Being an Adult Child of an Alcoholic," *The International Journal of the Addiction*, vol. 21(2).

Borovoy, Amy. 2001, "Recovering from codependence in Japan," *American Ethnologist*, vol.28.

Bowen, M. 1974, "Alcoholism as viewed through family systems theory and family psychotherapy," *Annals of the New York Academy of Sciences*, vol.233.

——— 1975, "Family therapy after twenty years," *American Handbook of Psychiatry*, vol.5.

———1978, *Family Therapy in Clinical Practice*, Jason Aronsen.

Bradshaw, John, 1992, *Home Coming: Reclaiming and Championing Your Inner Child*, Bantam.（新里里春監訳『インナーチャイルド——本当のあなたを取り戻す方法』）

Burgess, A.W., Holstrom, L.L., 1974, "Rape Trauma Syndrome," *American Journal of Phychiatry*, vol.131.

Cermak, T.L. 1986a, *Diagnosing and Treating Co-Dependency*, Johnson Institute Books, Minnesota.

———1986b, "Diagnostic criteria for codependency," *Journal of Psychoactive Drugs*, vol.18.

———1991, "Co-addiction as a disease," *Psychiatric Annals*, vol.21.

Chancer, Lynn. 1992, *Sadomasochism in Everyday Life: The Dynamics of Power and Powerlessness*, Rutgers University Press.

Collins, Barbara G., 1993, "Reconstruing Codependency Using Self-in-Relation Theory: A Feminist Perspective," *Social Work*, vol.38 (4).

Corad, P. & Schneider, J.W., 1992, *Deviance and Medicalization: from Badness to Sickness*, Temple University. （振動雄三監訳・杉田聡・近藤正秀訳 2003『逸脱と医療化——悪から病いへ』ミネルヴァ書房）

Cork, M., 1969, *The Forgotten Children*, Addiction Research Fundation.

Coudert, Jo, 1972, *The Alcoholic in Your Life*, Warner Paperback Library.

Crothers, M. & Warren, L. W. 1996, "Parental Antecedents of Adult Codependency," *Journal of Clinical Psychology*, vol.52 (2).

Davis, D. R. & Jansen, G. G., 1998, "Making Meaning of Alcoholics Anonymous for Social Workers: Myths, Metaphors, and Realities," *Social Work*, vol.43(2).

Dear, Greg, 1996, “Blaming the Victim: Domestic Violence and the Codependency Model,” in Sumner, Chris & Israel, Mark, et al. (eds.), *International Victimology*, Australian Institute of Criminology.

土居健郎 1956, “Japanese Language as an Expression of Japanese Psychology,” Takeo Doi (dir.), 2005, *Understanding Amae: The Japanese Concept of Need-love*, Global Oriental.

———1989, “The Concept of *Amae* and its Psychoanalytic Implication,” Takeo Doi (dir.), 2005, *Understanding Amae: The Japanese Concept of Need-love*, Global Oriental.

——— 1992, “On the Concept of *Amae*”, Takeo Doi (dir.), 2005, *Understanding Amae: The Japanese Concept of Need-love*, Global Oriental.

———2001 『続「甘え」の構造』弘文堂

———2007『「甘え」の構造（増補普及版）』弘文堂

Deleuze, Gill. *Logique du Sens*, 1969, Les Éditions de Minuit.（小泉義之訳 2007『意味の論理学　上・下』河出文庫）

Edwards, G., C. Harvwy&P. 1973, Whitehead, “Wives of Alcoholic: A Critical Review and Analysis” *Quarterly Journal of Studies on Alcohol*, vol.34.

遠藤優子 2001「臨床から見た共依存・アダルトチルドレン問題」清水新二編『共依存とアディクション　心理・家族・社会』培風館

Erickson, A.M, 1988, “Co-dependence and nursing,” *AD Nurse*, vol.3 (5).

Fajardo, Rogue. 1976, *Helping Your Alcoholic before He or She Hits Bottom: A Tested Technique for Leading Alcoholics into Treatment*, New York: Crown.

Favorini, Alison, 1995, “Concept of Codependency: Blaming the Victim or Pathway to Recovery?,” *Social Work*, vol.40 (6).

Foucault, Michel, 2004, *Naissance de la Biopolitique: Cours au Collège de France 1978-1979,* Edition établie sous la direction de François Ewald et Alessandro Fontana, par Michel Senellart.（慎改康之訳 2008『ミシェル・フーコー講義集成〈8〉生政治の誕生（コレージュ・ド・フランス講義 1978-79）』筑摩書房）

Fox, E., 1940, “Reawakening the Power of Your Wonder Child,” in *Power Through Constructive Thinking*, Harper&Row.

Friel, J.& Friel, L., 1986, Adult Children: Secrets of Dysfunctional family, Health Communications.

フロイト，ジークムント, 1895（芝伸太郎訳 2008「ヒステリー研究」『フロイト全集２』岩波書店）

———1917（高田珠樹・新宮一成・須藤訓任・道籏泰三「精神分析入門講義」『フロイト全集１５』岩波書店）

———1940（津田均訳「精神分析概説」『フロイト全集２２』岩波書店）

Fromm, Erich. 1941, *Escape from Freedom.* Avon Library.（日高六郎訳 1951『自由からの逃走』東京創元社）

———1956, *The Art of Loving*, Harper & Row.（鈴木晶訳 1991『愛するということ（新訳版）』紀伊國屋書店）

———1964, *The Heat of Man: Its genius for good and evil*, Harper & Row.（鈴木重吉訳 1965『悪について』紀伊國屋書店）

Futterman, S. 1953, "Personality trends in wives of alcoholics," *Journal of Psychiatric Social Works*, vol.23.

Gartner, Alan, Riessman, Frank, 1977, *Self-help in the Human Services*, Jossey-Bass Inc Pub.（久保紘章訳 1985『セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際』川島書店）

Giddens, Anthony, 1990, *The Consequences of Modernity,* Polity Press.（松尾精文・小幡正敏訳 1993『近代とはいかなる時代か？——モダニティの帰結』）

——— 1991, *Modernity and Self-Identity: Self and Society in the Late Modern Age*, Polity Press, 1991（秋吉美都・安藤太郎・筒井淳也訳 2005『モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会』ハーベスト社）

———1992, *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*, Polity Press.（松尾精文・松川昭子訳 1995『親密性の変容——近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房）

———1994, "Living in a Post-Traditional Society," in Beck, U, Giddens, A., Lash, S., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Polity Press.（松尾精文・小幡正敏・叶堂隆三訳 1997『再帰的近代化——近現代における政治、伝統、美術原理』而立書房）

Giele, Janet Z., 1961, "Social Change in the Feminine Role: A Comparison of Woman's Suffrage and Woman's Temperance, 1870-1920," unpublished dissertation, Radcliffe College.

Gilligan, Carol, 1982, *In a Different Voice: Psychological Theory and Women's Development*, Harvard University Press.（岩男寿美子監訳 1986『もうひとつの声——男女の道徳観のちがいと女性のアイデンティティ』川島書店）

Griffing, S., et al., 2005, "Reasons for Returing to Abusive Relationship: Effects of Prior Victimization," *Journal of Family Violence*, vol.20 (5).

Gutierrez, L.M., 1990, "Working with Women of Color: An Empowerment Perspective," *Social Work*, vol.35 (2).

箱田徹 2013『フーコーの闘争——＜統治する主体＞の誕生』慶応義塾大学出版会

Hands, M., Dear, G., 1994, "Co-dependency: a critical review," *Drug and Alcohol Review*, vol.13 (4).

Hayes, Jody, 1989, *Smart Love: A Codependence Recovery Program Based on*

Relationship Addiction Support Groups, Jeremy P. Tarcher.

Hazleden, Rebecca, 2004, "The Pathology of Love in Contemporary Relationship Manuals," *The Sociological Review*, vol.52 (2).

Hendricks, G., Hendricks, K., 1990, *Conscious Loving: The Journey to Co-commitment*, Bantam Books. （片山陽子訳 1993『コンシャス・ラブ――二人の愛を育てる本』春秋社）

Herman, Judith L., 1992, *Trauma and Recovery*, Basic Books.（中井久夫訳 1999『心的外傷と回復』みすず書房）

Hoagland, S.L., 1990, "Some Concerns About Nel Noddings' *Caring*," *Hypatia*, vol.5 (1)

Hogg, J.A., Frank, M.L., 1992, "Toward an Interpersonal Model of Codependence and Contradependence," *Journal of Counseling and Development*, vol.70 (3).

本田恵子 2001「アメリカにおける共依存研究の展開と最近の動向」清水新二編『共依存とアディクション　心理・家族・社会』培風館

洪金子（ほん・くうじゃ）2007「共依存アセスメントに関する一考察」『日米高齢者保健福祉学会誌』vol.2

Horney, Karen, 1950, *Neurosis and Human Growth*, New York: Norton Press.（榎本譲・丹治竜郎訳 1998『神経症と人間の成長』誠信書房）

Inclan, J., Hernandez, M., 1992, "Cross-Cultural Perspectives and Codependence: The Case of Poor Hispanics," *American Journal of Orthopsychiatry*, vol.62 (2).

伊藤智樹 2009『セルフヘルプ・グループの自己物語論――アルコホリズムと死別体験を例に』ハーベスト社

Jackson, J.K. 1954, "The Adjustment of the Family to the Crisis of Alcoholism," *Quarterly Journal of Studies on Alcohol*, vol.15.

―――1958, "Alcoholism and the Family," *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, vol.315.

Jamieson, Lynn, 1999, "Intimacy Transformed?: A Critical Look at the 'Pure Relationship'," *Sociology*, vol.33 (3).

Johnson, Frank. A., 1993, *Dependency and Japanese Socialization: Psychoanalytic and Anthropological Investigations into Amae*, New York University Press.（江口重幸・五木田紳訳 1997『「甘え」と依存――精神分析学的・人類学的研究』弘文堂）

Jordan, Judith V., 1984"Empathy and Self Boundaries," in Jordan, Judith V. et al. (eds.), 1991, *Women's Growth In Connection: Writings from the Stone Center*, The Guilford Press.

Jung, C. G., Kerenyi, C., 1951, *Einführung in Das Wesen Der Mythologie: Das Göttliche Kind / Das Göttliche Mädchen*, Publisher, 1969, *Essays on a Science of Mythology: The Myth of the Divine Child*, Bollingen Series.（柚木浦忠夫訳 1975『神話学入門』

晶文全書）
葛西賢太 2002「セルフヘルプのスピリチュアリティ――ささえあい文化の可能性」田邉信太郎・島薗進編『つながりの中の癒し――セラピー文化の展開』専修大学出版
―――2007『断酒が作り出す共同性――アルコール依存からの回復を信じる人々』世界思想社
樫村愛子 2002「代替生活世界的コミュニケーションの展開――若者たちに見るポストモダン的共同性」田邉信太郎・島薗進編『つながりの中の癒し――セラピー文化の展開』専修大学出版
Kasl, Charlotte Davis , 1989, *Women, Sex, and Addiction*, Perennial Library.
加藤篤志 1993「社会学的概念としての「共依存」――関係論的視点から」『年報社会学論集』vol.6.
河野貴代美 2006『わたしって共依存？』日本放送出版協会
Kittay, Eva Feder, 1999, *Lover's Labor: Essays on Women, Equality, and Dependency*, Routledge.（岡野八代・牟田和恵監訳 2010『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』白澤社）
Kerr, A.S.& Hill, E. W., 1992, "An Exploratory study comparing ACoAs to Non-ACoAs on Current Family Relationships," *Alcoholism Treatment Quarterly*, vol.9.
小池靖 2002「文化としてのアダルトチルドレン・アディクション・共依存」田邉信太郎・島薗進編『つながりの中の癒し――セラピー文化の展開』専修大学出版
小西真理子 2012「共依存と病理性――アルコホリックの妻を追う」『生存学』vol.5 生活書院
―――2013a, "What is Enabling: A Study of Support Groups of the Tohoku Earthquake" 『立命館言語文化研究』vol.24(4).
―――2013b, "The Double Effect of Confession: Narration and Sexual Addiction," （The 2nd Asia Pacific Behavioural and Addiction Medicine Conference (2nd APBAM)；Transforming Journeys, Singapore, 22- 23 May, 2013）
―――2013c「自己紹介に嗜癖する――ギデンズ、フーコーを手掛かりに」『アディクションと家族』vol.29(2).
―――2013d, "Similarities and Differences between the Ethics of Care and Japanese *Amae*," (Symposium international; Les éthiques du *care* et du souci: quels apports pour les sciences sociales?, Université d'Ottawa, Faculté des sciences sociales, Ottawa, Canada, April, 2013).（編集中）
―――2014, "Codependence as a Symbiosis: Focusing on Sexual Relationship," (8th Global Conference: Exploring the Erotic, Inter-Disciplinary.Net, Mansfield College of University of Oxford, Oxford, United Kingdom, September, 2013).（編集中）
Koppel, F., Stimmler, L., Perone, F.,1980, "The Enabler: A Motivational Tool in Treating

the Alcoholic," *The Journal of Contemporary Social Work*, vol.61 (9).
幸地芳朗、保坂卓昭、見野耕一、岩尾俊一郎、柴田明、菅野雅彦 1997 「阪神大震災の被災地におけるアルコール関連問題――光風病院入院患者の統計から」『病院・地域精神医学』vol.39 (4).
Krestan, J. & Bepko, C. 1991, "Codependency: The Social Reconstruction of Female Experience," in Bepko, C. (eds.), *Feminism and Addiction*, The Haworth Press. (「共依存――女性の経験の社会的再構築」斎藤学訳 1997『フェミニズムとアディクション――共依存セラピーを見直す』日本評論社)
Kritsberg, W., 1985, *Adult Children of Alcoholics Syndrome*, Health Communications.
久保明教 2011「〈機械―人間〉というイマージュ――生政治学と計算機科学における自己の編成」檜垣立哉編『生権力論の現在――フーコーから現代を読む』勁草書房
久保美紀 1995「ソーシャルワークにおける Empowerment 概念の検討――Power との関連を中心に」『ソーシャルワーク研究』vol.21 (2).
Kupfer, D. J., First, M.B., Regier, D. A., 2002, *A Research Agenda for Dsm-V*, American Psychiatric Association (黒木俊秀・松尾信一郎・中井久夫訳 2008『DSM-V 研究行動計画』みすず書房)
Levine, H.G., 1978, "The Discovery of Addiction," *Journal of Studies on Alcohol*, vol.39 (1).
―――1984, "The Alcohol Problem in America: From Temperance to alcoholism," *British Journal of Addiction*, vol.79.
Lodl, K. M., 1995, "A Feminist Critique of Codependency," in Babcock, M. & Mckay, C. (eds.), *Challenging Codependency: Feminist Critiques*, University of Toronto Press.
Lyon, D. & Greenberg, J. 1991, "Evidence of Codependency in Women with an Alcoholic Parent: Helping Out Mr. Wrong," *Journal of Personality and Social Psychology*, vol.61 (3).
前田ケイ 1984「セルフヘルプ・グループ」『季刊精神療法』vol.10 (3)
真栄里仁・樋口進 2011「災害とアルコール」『現代思想』vol.39 (12)、青土社
Masterson, James, 1985, *The Real Self: A Developmental, Self, and Object Relations Approach*, Routledge.
松本俊彦 2011「DSM-5 ドラフトにおける物質関連障害」『精神科治療学』vol.30 (4)
松島恵介 1996「『しない私』と『した私』――断酒的自己を巡るふたつ（あるいはひとつ）の時間について」佐々木正人編『想起のフィールド――現在のなかの過去』新曜社
Mayeroff, M., 1972, *On Caring*, Harper Perennial（田村真・向野宣之訳 1987『ケアの本質――生きることの意味』ゆみる出版）
McIntyre, Jeffrey, "Reflections on Male Codependency," in Bepko, C. (eds.), *Feminism and Addiction*, The Haworth Press. （斎藤学訳 1997「男性の共依存についての考察」

『フェミニズムとアディクション――共依存セラピーを見直す』日本評論社）
Mellody, Pia, 1989, *Facing Codependence: What it is, Where it comes from, How it Sabotages our lives*, Harper San Francisco. （内田恒久訳『児童虐待と共依存――自己喪失の病』そうろん社）
Mendenhall, W.M.. 1989, *Co-dependency definitions and dynamics*. Alcoholism Treatment Quarterly.
Miller, Alice, 1979, （translated by Ward, Ruth, 1997, *The Drama of the Gifted Child: The Search for the True Self*, Basic Books; 山下公子 1996『才能ある子のドラマ――真の自己を求めて』新曜社）
Miller, Angelyn, 1988, *The Enabler: When helping harms the ones you love*, Ballantine Books. （夏生悠訳 1999『何がまちがっていたの――「愛」で支配するひと・イネイブラー』ヘルスワーク協会）
Missildine, W. H., 1963, *Your Inner Child of the Past*, Pocket Books.（泉ひさ訳 2000『幼児的人間――あなたの内なる過去の子ども』黎明書房）
水澤都加佐 1998「人生という旅は、軽装備のほうがいい！――監訳者による解説」『もちきれない荷物をかかえたあなたへ』アルク・ヒューマン・ケア
Morgan, J. P. 1991, "What is Codependency?," *Journal of Clinical Psychology*, vol.47 (5).
森村修 2000『ケアの倫理』大修館書店
Morita, Akira, 2011, "Amae and Belonging: An Encounter of the Japanese Psyche and the Waning of Belonging in America," *Brigham Young University Journal of Public Law*, vol.25 (2).
Murck, M, 1988, "Co-dependence among helping professionals," *Observer: News From the Johnson Institute*, vol.10 (3).
中山道規・佐野信也・一ノ渡尚道 1995「ACOA」『精神科治療学』vol.10.
西尾和美 1995「共依存症の精神療法」斎藤学編 1999『依存と虐待』日本評論社
信田さよ子 1995「アダルト・チルドレンと共依存」斎藤学編 1999『依存と虐待』日本評論社
―――1996『アダルト・チルドレン完全理解――一人ひとり楽にいこう』三五館
―――2004『夫婦の関係を見て子は育つ――親として、これだけは知っておきたいこと』梧桐書院
―――2006「アディクション・アプローチと家族療法――権力という問題」『アディクションと家族』vol.22 (4).
―――2009『共依存・からめとる愛』朝日新聞出版
―――2012a「アルコールグループ・断酒会・AA」『現代思想』vol.40 (11), 青土社
―――2012b「否認の病から家族の医療化へ」『現代思想』vol.40(17), 青土社
野田哲朗 1996「震災後のアルコール関連問題」『精神科治療学』Vol.11

Noddings, Nel, 1986, *Caring*, The University of California Press.（立山善康・清水重樹・新茂之・林泰成・宮崎宏志訳 1997『ケアリング――倫理と道徳の教育 女性の観点から』晃洋書房）

野口裕二 1996『アルコホリズムの社会学――アディクションと近代』日本評論社

緒方明 1996『アダルトチルドレンと共依存』誠信書房

Olmsted, Maureen E., Crowell, Judith A., Waters, Everett, 2003, "Mating Among Adult Children of Alcoholics and Alcoholics," *Family Relations*, vol.52 (1).

Palino, T & B. McCrady, 1977, *The Alcoholic Marriage: Alternative Perspectives*, Grune&Stratton.

Pixley, J.M., Stiefel, J. R., 1963, "Group Therapy Designed to Meet the Needs of the Alcoholic Wife," *Quarterly Journal of Studies on Alcohol*, vol.24.

Policinski, H, 1986, "Family Caretakers…Professional Caretakers," *Focus on Family and Chemical Dependency*, vol.6 (5).

Prest, L.A. & Probinsky, H., 1993, "Family systems theory: A unifying framework for codependence," *The American Journal of Family Therapy*, vol.21.

Price, G.M. 1945, "A Study of wives of twenty alcoholics," *Quarterly Journal of Studies on Alcohol*, vol.5.

Réage, Pauline, 1954（澁澤龍彦訳 1992『O 嬢の物語』河出書房新社）

Rice, J.S. 1998, *A Disease of one's own: psychotherapy, addiction, and the emergence of co-dependency*, transaction Publishers.

Rieff, Philip, 1966, *The Triumph of the Therapeutic: Uses of Faith after Freud*, Chicago: University of Chicago Press.

Richmond, M.E., 1922, *What is Social Case Worker?：An Introductory Description*, New York Russell Saga Foundation（小松源助訳 1991『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規）

Rieff, Philip, 1966, *The Triumph of the Therapeutic: Uses of Faith after Freud*, Chicago: University of Chicago Press.

Rimmer, J., Winoku, G., 1972, "The Spouses of alcoholics: an Example of Assortative mating", *Disease of Nervous System*, vol-33.

Roach Stephen, 2014, *Unbalanced: The Codependency of America and China*, Yale University Press.

Rosalie, A., Caffrey, R.N., Caffrey, P.A., 1994, "Nursing: Caring or Codependent?," *Nursing Forum*, vol.29 (1).

Rotunda, R.J., 1996, *Behavioral Enabling Scale*, Unpublished questionnaire.

Rotunda, R.J.&Doman, K., 2001, "Partner Enabling of Substance Use Disorders: Critical Review and Future Direction," *The American Journal of Family Therapy*, vol.29(4).

Rotunda, R.J., West, L., O'Farrell, T.J., 2004, "Enabling Behavior in a Clinical Sample of Alcohol-Dependent Clients and Their Partners," *Journal of Substance Abuse Treatment*, vol. 26 (4).

斎藤学 1988「アルコホリック家族における夫婦相互作用と世代間伝達」『精神神経学雑誌』vol-90 (9).

———1993「監訳者まえがき」『嗜癖する社会』誠信書房

———1995a「イネイブリングと共依存」『精神科治療学』vol.10(9)

———1995b「共依存と見えない虐待」斎藤学編 1999『依存と虐待』日本評論社

———1996『アダルト・チルドレンと家族——心のなかの子どもを癒す』学陽書房

———2004『「自分のために生きていける」ということ——寂しくて、退屈な人たちへ』大和書房

———2009「エロティシズムとアディクション——現代人の恋愛、共依存、親密性」『アディクションと家族』vol.26 (1).

Schuckit, Marc A., 1994, "Are Daughters of Alcoholics More Likely to Marry Alcoholics?," *American Journal of Alcohol Abuse*, vol.20 (2).

Seligman, M.E.P., 1975, *Helplessness: On Depression, Development, and Death*, W.H. Freeman.（平井久・木村駿監訳 1985『うつ病の行動学：学習性絶望感とは何か』）

Sheaf, Anne Wilson. 1987a, *Codependence: misunderstood, mistreated*, Harper & Row.

———1987b, *When Society Becomes an Addict*, Harper & Row.（斎藤学監訳 1993『嗜癖する社会』誠信書房）

———1989, *Escape from Intimacy: Untangling the "Love" Addictions: Sex, Romance, Relationships*, Harper San Francisco.（高畠克子訳『嗜癖する人間関係——親密になるのが怖い』誠信書房）

清水新二 1992『アルコール依存症と家族』培風館

———2001「家族と共依存」清水新二編『共依存とアディクション——心理・家族・社会』培風館

Shimizu, S., Aso, K., Noda, T., Ryukei, S., Kochi, Y., Yamamoto, N., 2000, "Natural disasters and alcohol consumption in a cultural context: the Great Hanshin Earthquake in Japan," *Addiction*, Vol.95 (4).

篠田靖子 1983「アメリカにおける禁酒運動と婦人参政権」『金城学院大学論集』vol.16.

Sloven, Jane, 1991, "Codependent or Empathically Responsive?" in Bepko, C. (eds.), *Feminism and Addiction*, The Haworth Press. （斎藤学訳 1997「共依存か、共感的反応か？」『フェミニズムとアディクション——共依存セラピーを見直す』日本評論社）

Smith, A.R., 1993, "The social construction of group dependency in Alcoholics Anonymous," *Journal of Drug Issues*, vol.23 (4).

Smith, A. W., 1988, *Grandchildren of Alcoholics: Another Generation of Co-dependency*,

Health Communications.（斎藤学監訳・和歌山友子訳 1988『アダルト・チルドレンの子どもたち』誠信書房）

Snow, C.&Willard, D., 1989, *I'm Dying to Take Care of You: Nurses and Codependence : Breaking the Cycles*, Redmond, WA: Prodessional Counselor Books.

Spann, Lynda, 1996, *Attribution about Codependency on the Part of Feminists and Nonfeminists*, A Dissertation in Marriage and Family Therapy, Submitted to the Graduate Faculty of Texas Tech University in Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Doctor of Philosophy.

Steinglass, P., 1976, "Experimenting with Family Treatment Approaches to Alcoholism 1950-1975: A Review" *Family Process*, vol.15.

Surrey, Janet L., 1983, "The "Self-in-Relation": A Theory of Women's Development," in Jordan, Judith V. et al. (eds.), 1991, *Women's Growth In Connection: Writings from the Stone Center*, The Guilford Press.

鈴木俊博 2012「被災と支援とアディクション――ある精神科病院の 3.11――」『アディクションと家族』vol.28 (4)

武田圭太 1997「日本人の生涯キャリアの創造――共依存関係のなかでの個性化の実現」『Business Insight』vol.17.

Tallen, B. S., 1995, "Codependency: A Feminist Critique," in Babcock, M. & Mckay, C. (eds.), *Challenging Codependency: Feminist Critiques*, University of Toronto Press.

谷口恵子 2007「日本社会の中での共依存」『日米高齢者保健福祉学会誌』vol.2

Troise, F.P., 1995 "An Examination of Cermak's Conceptualization of Codependency as Personality Disorder," *Alcoholism Treatment Quarterly*, vol.12.

上野千鶴子 2000「『プライバシー』の解体――私的暴力と公的暴力の共依存をめぐって」『アディクションと家族』vol.17 (4)

上野加代子 2001「アディクション・共依存の社会的構築」清水新二編『共依存とアディクション　心理・家族・社会』培風館

上野易弘 1997「孤独死，自殺，労災死などの震災関連死の実態」神戸大学＜震災研究会＞編『苦闘の被災生活』神戸新聞総合出版センター

―――1999「震災死と『孤独死』」『都市政策』Vol. 96

Verdiano, D.L., Peterson, G.W., Hicks, M.W., 1990, "Toward an Empirical Confirmation of the Wegscheider Role Theory," *Psychological Reports*, vol.66 (3).

Vernig, Peter M, 2011, "Family Roles in Homes with Alcohol-Dependent Parents: An Evidence-Based Review," *Substance Use & Misuse*, vol.46 (4).

Veysey, Bonita. M. & Christian, Johnna, 2009, "Moments of Transformation: Narratives of Recovery and Identity Change" *Japanese Journal of Sociological Criminology*, vol.34.

Walker, Lenore E., 1979, *The Battered Woman Syndrome*, Harper&Row.（斎藤学訳 1997

『バタードウーマン：虐待される女たち』金剛出版）

Wallace, J., 1983, Ideology, belief and behavior: Alcoholics Anonymous as a social movement, In E. Gottheil, K. Draley, T. Skolada, H. Waxman (Eds.), *Etiologic Aspects of Alcohol and Drug Abus*e, Springfield.

Walters, G., "The Codependent Cinderella who loves too much……fights back," in Babcock, M. & Mckay, C. (eds.), *Challenging Codependency: Feminist Critiques*, University of Toronto Press.

Wegscheider-Cruse, S., 1981, *Another Chance: Hope and Health for the Alcoholic Family*, Science and Behavior Books.

——— 1984, "Co-dependency: The Therapetic Void," ed, in Wegscheider-Cruse (eds.), *Co-dependency*, Health Communications.

———1985, *Choice-Making: For Co-dependents, Adult Children and Spiritual Seekers*, Health Communications.

Wegscheider-Cruse, S. & Cruse, J. R., 1990, *Understanding co-dependency*, Health Communications.

Weisner, C.M. & Room R., 1984, "Financing and Ideology in alcohol treatment" Social Problems, vol.32.

Whalen, T. 1953, "Wives of alcoholics: four types observed in a family service agency", *Quarterly Journal of Studies on Alcohol*, vol.14.

Whitfield, C.L. 1987, *Healing the Child Within: Discovery and Recovery for Adult Children of Dysfunctional Families*, Health Communication. （斎藤学・鈴木美保子訳 1997『内なる子どもを癒す＝アダルトチルドレンの発見と回復』誠信書房）

———1991, *Co-dependence,* Health Communications.

Williamas, E., Bissell, L., Sullivan, E., 1991, "The effects of co-dependence on physicians and nurses," *British Journal of Addiction*, Vol.86 (1).

Winnicott, Donald, 1960, "Ego Distortion in Terms of True and False Self," in *The Maturational Process and the Facilitation Environment*, International Universities Press (1965).（牛島定信訳 1977「本当の、および偽りの自己という観点からみた、自我の歪曲」『情緒発達の精神分析理論――現代精神分析双書　第 II 期第２巻』岩崎学術出版社）

Wiseman, Jacquelne P. 1975, "An Alternative role in the wife of an alcoholic in Finland" *Journal of Marriage and the Family*, vol.37.

Woititz, J.G., 1983, *Adult Children of Alcoholics*, Health Communications.（斎藤学・白根伊登恵訳 1997『アダルト・チルドレン――アルコール問題家族で育った子供たち』金剛出版）

Wolin, S.J., Steinglass. P., Sendroff, P., Davis, D.I., Berenson, D., 1975, "Marital

Interaction during Experimental Intoxication and the Relationship to Family History," in Gross, M. (ed.), *Experimental Studies of Alcohol Intoxication and Withdrawal*, Plenum Press.

Wray, L.M., 1989, "Codependency: nurses who give too much," *American Journal of Nursing*, Vol. 89 (11).

山田正行 2012「アイデンティティと歴史の自己教育的研究（V）――エディプスコンプレックス、去勢コンプレックス、デモーニッシュなものに即して」『大阪教育大学紀要』vol.61 (1).

山家歩 2003「依存を通じての統治――AC や共依存に関する言説についての検討」『ソシオロジ』vol.47 (3).

Zupanic, C. E., 1994, "Adult Children of Dysfunctional Families: Treatment from a Disenfranchised Grief," *Death Study*, vol.18.